タイ・タマサート大学生12人が八幡平市へ

日・タイ交流は21回目 延べ300人を超える

タイ国タマサート大学の学生・教員13人は、7月12日から22日までの11日間、本市に滞在し、日本の生活・文化を体験しました。

今回で21回目となるタマサート大学日本生活文化体験旅行。本市を訪れた生徒らは延べ300人を超えます。

訪問団は13日、八坂神社祭典で引かれる山車の太鼓体験に参加し、児童と一緒に太鼓を叩きました。タイとのテンポの違いを肌で感じ、笑顔があふれました。17日は、八幡平ロイヤルホテルを訪問し、職場体験を実施。食器洗いや宴会場の会場作りなどを体験しました。18日の日・タイ文化交流会では、タイと日本の郷土芸能の相互披露や、両国の料理を紹介し合い、関係者やホストファミリーらと交流を深めました。

保育園や学校、老人介護保健施設を訪問するなど、地域住民との触れ合いを楽しみました。

タマサート大学生の**ウォーラガーン・サプマニーナン(ティン)**さん(左から2人目)と**髙橋正広**さんファミリー

初めての学生受け入れ 緊張解け家族の一員に

わが家の3人の子どもたちにも良い経験になると思い、初めてホストファミリーを引き受けました。

最初はお互い緊張しましたが、ティンさんを囲んでお酒を飲んだ時、緊張が解けて話が弾みました。ラム肉を食べたり、花火をしたりして、楽しい日々を過ごしました。

ティンさんの希望で、バレーボールを題材とした漫画の舞台である軽米町に出かけ、すごく喜んでもらえた事は、とても良い思い出です。

これからもずっと、ティンさんは家族の一員です。

市民の優しさに感謝し 退官後の事業継続願う

私は八幡平市との交流事業に、学生の引率で1回目から参加していますが、今年の9月末で定年退官します。

観光で日本を訪れる学生は多いのですが、学校訪問やお祭りなどを体験でき、さまざまな日本文化に触れ合うことができるのは、日本でも八幡平市だけです。

ホストファミリーの会を始め、市民の皆さまのおかげで20年以上も事業が続いていること、そして学生をわが子のように慕ってくれていることに深く感謝いたします。

今後もこの交流がずっと続くことを願っています。

タイ・タマサート大学
ウィーラワン・ワシラディロク 准教授